

令和6(2024)年度 授業評価アンケートに対する自己点検・評価

教員氏名	授業評価アンケートに対する自己点検・評価	「自由記述欄」の内容に対する自己点検・評価
伊藤 利明	春学期の科目:教育方法論(ICT活用の理論と方法を含む)」「社会科教育法Ⅰ」「社会科・公民科教育法Ⅰ」「道徳と宗教」、秋学期の科目:「社会科教育法Ⅱ」「社会科・公民科教育法Ⅱ」「道徳教育の理論と実践」「倫理学」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業評価アンケート結果は、おおむね良好であった。 「道徳と宗教」と「倫理学」では受講生が比較的多く、50名前後の学生が履修した。授業の回数が進むにつれて、欠席回数が増える学生がおり、結果的に2割以上の学生が欠席過多となっていた。もっと出席してほしいと思う。	「教育原理」「教育方法論(ICT活用の理論と方法を含む)」「社会科教育法Ⅰ」「社会科教育法Ⅱ」「社会科・公民科教育法Ⅰ」「社会科・公民科教育法Ⅱ」「道徳教育の理論と実践」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業評価アンケートでは、自由記述がなかった。 「道徳と宗教」では、パワーポイント資料を見る時間が短いとの意見があった。その後パワーポイント資料を見せる時間を長くするように心がけるとともに、授業終了後、空欄の答えがわからない学生には絵を教えるようにした。 「倫理学」では、コミュニケーションをとる機会を増やす方が楽しく学べるとの意見があった。学生の意見は課題レポートに書いてもらうようにしているが、今後課題レポートの機会を増やし、学生とのコミュニケーションをとる機会を増やすことを検討したい。
伊藤雅一	本年も、質問3「主体的に学習したか」、これに関連する質問7「質問や意見を述べられるようにしたか」、質問11「興味や関心の持てるものであったか」、質問13「社会に出て役立つ内容が含まれていたか」の観点を重視し、授業運営を進めた。これらの評価項目については、春学期、秋学期の授業を通じて概ね4.5～4.7の評価であった。また、評価項目の全体を通じて、8割以上の項目が4.5を超える評価であった。 授業では、尾張旭市のごみ減量など、学生にとって身近な課題を取り上げ、定期的に学生の理解度を確認することで、学生が主体的に学習に取り組めるように配慮している。今後の授業改善に向けても、主体的な学習に対する配慮の継続と改善に取り組むことで、学習効果を高めていきたいと考えている。 なお、質問12「シラバスの内容に沿ったものであったか」は、一部の科目で4.1と相対的に低い評価であった。授業では、シラバスに沿って自作のテキストを作成、配布し、これに沿って説明を行っているので、今後は、シラバスとの関係を定期的に確認し、理解を促すようにしたい。	授業で実施したレポート課題については、その都度、学生にフィードバックしている。その際、レポートの評価基準を説明したうえで、この基準を満たす全てのレポートを紹介・共有するようにしている。 このため、「レポートも毎回フィードバックがあるため、内容が濃く頭に入りやすかった」との意見があった一方で、秋学期の授業では、「レポートを書くことに精一杯で内容が頭に入らない」というコメントも寄せられた。これは、授業やレポート課題のフィードバックを通じて提供した様々な情報をうまく整理できなかったことに起因する感想と思われる。Chat GPT対策で、レポートは授業中に実施し、作成時間も適切に設定しているつもりであるが、レポートの作成速度が遅い学生への配慮について検討したい。 このほかの自由記述としては、「聞きやすかった」、「また受けたい」、「授業毎に新聞などの資料を配布し、授業内容を分かりやすくする補助があり、とても助かった」などといった肯定的な意見が寄せられた。これらの点は継続して取り組んでいきたいと思う。
伊藤理香	全体的な評価としては高い評価を得ることができた。この結果は、講義の授業では学生が学習内容をイメージできるよう進めた。また、理解度を確認しながら授業を行うよう努めたことが学習意欲の向上につながったと考えます。実技の授業では、学生の主体的で能動的な活動を促すよう努めた。今後、更に学習方法の工夫を行うことで、学生の学習意欲を高めて参ります。	とてもわかりやすいとのご意見などがありました。今後も、理解度など確認して授業を行って参ります。

岡村 聖	「聞き取りやすいように話をしましたか」「わかりやすく情報・資料を提示しましたか」「学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」「授業の内容は自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」「何らかの形で役に立つ内容が多く含まれていましたか」の項目は、全体評価と比較して高い評価を得た。次年度以降も継続していきたい。一方、「熱意を持って授業に取り組んでいましたか」「自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」の項目は、科目によって評価に差が見られた。次年度以降は、どの科目においても肯定的な評価が得られるよう改善を図りたい。	「テレビの報道だけでは分からなかった点も理解できるようになり、自分にとってためになる授業だった」といった固定的なコメントが複数寄せられた。次年度以降も、授業ならではの学びが得られるよう工夫していきたい。一方で、より詳しいフィードバックを求める声もあったため、フィードバックの方法を改善していきたい。
河村 郁江	授業評価アンケートでは、基本的に良い評価をもらうことができた。しかし、あなたは授業の内容を理解するため主体的に(自分自身で)学習しましたか。の回答の取り組みが他の評価と比べ比較的少なかったため、自分自身で学習する方向へ導くような授業内容や課題を検討する必要がある。	Web構成論の授業へのコメントで、自分でWebサイトを作るのは楽しく、自分なりにオリジナリティ溢れるようなWebサイトを作成できたと思ったので良かったという感想があり、Webサイト制作技術を身につけ、それを楽しいと思えたことがわかった。メディアコミュニケーション論に関しては、少し難しいという意見があった、もう少しわかりやすい言葉で授業を進めることと、考える時間を増やすことを今後心がける。これから更に授業の質を高めていきたい。
高木 弘恵	教員が熱意をもって授業に取り組んでいる評価が高く有難い。外部から活躍している講師を招聘しているために日程などの変更がおりシラバスから変更になることがあった。シラバスに変更がある可能性があることは記載しているが、今後はそのようなことがないように気を付けていきたい。	社会で活躍されている方々の話は、学生たちのこれからの人生にいい影響があり楽しく学んでいる。将来役に立つと感じている学生が多い。話を聞くことに集中してしまいレポートが遅れがちになる学生にも配慮し、今後はスライドを送るタイミングや話し方のスピードもゆっくり対応できるようにしていきたいと思う。
今永 典秀	平均を上回る点数を獲得できている科目が多かった。一方で、授業に参加した人数に対して、回答者の割合が少ない科目もあった。丁寧にアンケートを依頼したつもりではあったが、丁寧に依頼を行い、回答率の向上に繋がりたい。	自由記載で具体的な授業に係る記載はなかった。ただし、授業の満足度の高さや、御礼などが含まれており、今後の授業改善への励みとなる内容が含まれていた。今後も学生が満足につながる内容へと改善し続けていきたいと思う。
三宅 章介	板書に注意して、分かりやすく書くことに留意したいと思います。また、少し早口かもしれません。また板書しすぎという意見も例年あるので、テキストのことも考えて注意したいと思います。	別になかったように思います。ただ、板書については注意しなければならないと思います。

松林康博	3・4年生が選択必修科目として、受講する現代ビジネス演習1・2は、かなり大胆な科目変更を実施した中で、大半の学生に大きな混乱を与えることなく、科目実施できたことは評価して良いと思われる。まだ、一部の四年生が地域ビジネス論からの移行期間に相当する部分もあり、そういった学生への配慮も組み込んでいる部分で学生からの指摘があったので、その点に関して来年度は改善を施せるよう算段を組んでいる。	現代ビジネス演習がなぜ必須科目なのか理解できないという声があったが、複数人数の教員で実施する点で齟齬があったのか、それか、選択必修科目として他の科目に比べ、高い受講意欲を持つよう設計した部分があり、レポートの文字数が多い等の不満を持つ学生がいたかもしれない。しかしながら、本学の学生として恥ずかしくない学生を送り出すために重要な意図を持った科目なので、その点に関しての変更を加えるつもりはない。ただ、授業方法や意図の説明、意図を実現するための科目設計等、改善を加えられる点は既に来年度の改善を施している。
上島春喜	座学においてはパワーポイントでの授業とプリント提出、小テスト、グループ討議の実施等を行ってきました。授業速度が若干速いとの学生からの指摘がありましたので今後、受講するすべての学生が学習理解が深まるように配慮して授業の展開を実施に努めたい。	自由期日がありませんでした。
森下 純弘	全体的に高評価を得られたと思う反面、「あなたは授業の内容を理解するため主体的に（自分自身で）学習しましたか」「この授業を受けてみて、あなた自身がシラバスに記載されているこの授業の到達目標を達成したと思いますか」の評価はリンクするように思う。「授業に関する要望など」が特記する記載が無かったことは良くも悪くも感じる。	自由記述がありませんでした
菅井 径世	本年も、評価点は担当する科目毎、年度毎に、変動している。昨年同様、学内全体で同様に変動が大きい傾向があるとのことであるが、個別のデータからも、評価点の平均値に対するばらつきが大きい傾向があることが分かった。履修生の数に対してアンケート数が少ないこと、また、回答のあったアンケートにおける評価項目においてどの質問に対しても同じ評価結果を選択している回答が多いことから、アンケートの数値が多少高くなっている場合も、低くなっている場合も、変動は誤差の範囲であると評価すべきであると考え。授業内容の本質を変化させることはしていないが、例年、受講生の理解度に合わせて、それぞれの講義で工夫している。熱心に受講する学生が評価を高くしている可能性が大きいと思われる。	「特に要望はありません」といったコメントを含め、回答数が少ないので、アンケートによらず、学生に声をかけて希望を聞くようにしている。卒業生から「今になって、あの時のお話の内容が分かるようになりました」との声を聴くと、重要なポイントとして継続的に講義していくべき内容が分かる。「面白い話がなくて好き」というコメントと「話が難しく、よくわからなかった」の両方が同一科目に記されており進め方について検討を継続しなければならない。「とても分かりやすかった」といったコメントがあるので、内容と進め方について変更すべきでない点もある。今後も、これらも参考にして進めていく予定である。重要な情報についてはノートを取れたか否かを確認しながら講義を進めているが、前もって講義内容をTeamsへアップロードし案内もしている。資料があることは多くの履修生が周知していたが、漏れのないように周知を図ることで対応する予定である。その他の要望には、次年度、時間を取って対応する予定である。

星野雪子	アンケート結果から、一定の学習効果を読み取ることができました。「興味や関心のもてる」「役に立つ内容」「満足した」もポイントが高く、課題に着実に取り組む学習態度の受講生は、学習目標を概ね達成できていたことを読み取ることができました。 授業内容を確実に理解してもらうために、授業構成と教材を工夫して、説明を繰返して理解を促進する、一斉講義に加えて個別指導のための質問タイムを確保する、全課題の提出を義務付けることによる学習効果も狙い通りの成果をあげています。	以下の記述により、狙い通りの授業成果になっていたことがわかりました。 学習意欲の促進は『わかりやすく教えているから授業頑張っています。』『大事な科目なので学ぶことを大切にしています。』でした。授業内容については『社会に出た時に生かせると思いました』『日常生活にも役に立つことを学べる科目』でした。満足度は『非常に満足度の高い講義でした』『面白くて優しくて教えます。新しいことをたくさん学べました。』でした。
石山 智典	対象となったすべての科目で全体平均と同じか平均を上回った。これは、考えたり、協議をしたり、発表したりする活動を数多く取り入れるとともに、しれに対するフィードバックを授業内で行ったことから、学生が受け身ではなく主体的に参加する授業を実現することができたことが要因であると考えられる。	自由記述欄に「楽しかった」というコメントがあった。前問への回答の通り、学生が自ら行動しなければならない授業を通して、学生自身が充実感をもって授業に参加したことが要因であると考えられる。
赤松章	春学期の『情報入門』で講義形式の授業を行ったが、「もう少し分かり易い言葉を使ってほしい」「言っていることが理解できなかった」という回答があった。今後は基礎的なワードであっても丁寧に教えるように心がける。医療統計、医療統計・演習、統計学基礎と3つの統計系の科目であり、分かり易い説明を心がけたつもりだったが、難しいと感じた生徒が多かったようだ。今後も引き続き数式を使わず、平易な言葉を使用して学生にとって数式・統計アレルギーがでないような工夫に努める。その他も含めて講義形式の授業であっても、最初の30分単位で講義・手を動かす演習、討論やグループワークを組み合わせ、飽きない授業になるように改善する。(授業改善への努力) 秋学期の『統計処理とデータマイニングⅠ(定量)』では実際の地場企業を訪問し、その企業の実データを提供頂いて学生に、事業の改善提案をしてもらうというPBL(プロジェクトベースドラニング)の形式で授業を行った。加えて積極的に学生と議論を交わすように授業を改善した。その結果、同一学生対象の授業の評価点の平均点が春:2.4、秋:3.8と格段に向上した。実際に積極的に授業に参加する学生が多くなったことが実感できた。今後もできる限り、授業にアクティブラーニングの手法を取り入れて、学生が主体的に取り組めて学習効果の高い授業にしていきたいと考えている。今後も引き続き授業内容および授業方法を工夫、改善してまいります。	春学期は、「もう少し分かり易い言葉を使ってほしい」「言っていることが理解できなかった」という回答があった。秋学期はできるだけ平易な言葉を使用することと、できるだけ解説を加えるようにした。今後も分かり易い授業になるように改善を続けていきます。
川崎成一	概ね良好であったものと思料。但し、主体的に学習していない学生が相対的に多い科目では、満足していない学生も多いという結果もあり、いかに授業で動機付けを与えるのかが大切であるという結果も浮き彫りとなった。	前回授業の復習のために、繰返し説明していたことを無駄だとする記述があった。確かに、一部(一人)の学生の意見としては受け止めるが、大多数の学生にとっては有益であるとする。

巢 宇燕	春学期、秋学期の授業を通じて全体的に概ね4.5前後の評価を得られているが、学生自身についての評価はやや低いとみられる授業がある。従いまして、今後さらに学生のやる気を引き出せる工夫をする必要があると思う。また、I限目の授業について、遅刻とか欠席する学生も散見されるため、遅刻と欠席を減らせるための工夫も必要である。どの授業にでも興味を持ってもらえるように、よりアクティブ・ラーニングに近い方式で授業を展開し、充実感を高める取り組みも行いたい。	自由記述のコメントが今年度は少ないが、大丈夫ですというポジティブなコメントが見られる一方、「一番新しい情報をいれてほしい。」と言った意見もあるため、これから常に最新の情報を紹介と共有ができるように心掛けたい。よいところを伸ばしていき、不足点を改善し、今後さらに学生の興味を持たせ、関心を高める工夫をしていき、全体の難易度をバランよく取れるように努める。
長谷川泰洋	「わかりやすい言葉を使ったりゆっくり話したりするなど、先生は聞き取りやすいように話をしましたか」、「先生は、板書やOHC・パワーポイントなどを使ってわかりやすく情報・資料を提示しましたか」、「先生は、熱意を持って授業に取り組んでいましたか」、「授業の内容は自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」などの授業で提供している内容についての評価は概ね高かった。一方で「あなたは授業の内容を理解するため主体的に学習しましたか」、「先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」などの学生が主体的に授業に関わる項目の評価がやや低かった。学生が主体的に学習する仕組み(グループワーク等)を検討する。また、質問や意見を述べられる時間を確保する。	「とても話が分かりやすく解説していただけるので授業がわかりやすい」、「興味深い内容があった」、「解説説明がとてもわかりやすく、授業内容が自分自身にすごく入ってきた。」「レジメも図や表が分かりやすく明確に乗っていてそれもわかりやすかった。」など、わかりやすかったとの意見が多い中で、「留学生に対してはややスピードが速く、重要なポイントを繰り返して欲しい」や「資料と説明をシンプルにして欲しい」とのコメントがあり、一部の学生は、内容が多いと感じたり、スピードが速いと感じている様なので、授業内容を整理し、改善に努める。
飯田 博	コンピュータ室での講義ではB-Learning(ブログで学修支援): http://iida-lab.seesaa.net/ 上で分析処理手順等の授業資料を配布した。Excelのスキルも含め繰り返し丁寧に教えた。授業を休んでも講義日誌をネットで取り出せるよう配慮し、各回復習をしてから講義を進めた。そして毎回、Web上で簡易授業アンケートを実施し受講生の理解度を把握、興味のある点を抽出しながら、毎回「・・・ができるようになった」と意識できるように講義を進めた。アンケート結果はほぼ4.0以上で合格点をもらっていると判断している。しかし、毎講義時に今日のテーマをブログ「ブログde学修支援で明確にしてシラバスとの整合性を周知することに努めているつもりであったが、事前にユニパで配布された「シラバス」が「授業に役に立ってる」という認識が希薄なようであった。「シラバス」が『授業に役に立ってる』を認識させるため、そして予習・復習の励行を習慣化させるためにWebシラバスの内容を講義録の形式にしてさらに充実させるために学生の理解・知識量に則した教材の開発が必要だと深く認識した。新年度に向けて新規に予習・復習サイトを起し、予習によって授業の理解が進み、復習によって知識・スキルの定着が意識できる教材を開発したい。予習復習を励行を促進するためにレポートの提出を毎回義務付け授業成果を学生が認識できるようにしたい。また、毎回Web上で簡易授業アンケートを実施し受講生の理解度を把握、興味のある点を随時抽出し、学生が毎回「・・・ができるようになった」と意識できるように講義を進めたい。	「統計学」では、履修者が70名を超えたので、アシスタントをつけて2PC教室で講義・演習実施したことにより、学生から、「人数制限を設けないと講義の質が低下します」という指摘を受けた。次年度からは、学生サービスの向上・授業の質向上のために、履修人数がオーバーした場合は、履修制限をかけることにする。

富田裕平	簿記関連科目が例年よりも高い評価を受けることができたことはよかった点である。今後、点数がさらに高まるように授業内容の向上を図りたい。卒業後に社会で役立てることができる場面を提示するなど実践的に知識を活用できる点を説明し、更に授業に興味を持っていただけるように努力をしていきたい。	自由記述欄の記載がほとんどないため、今後は何かしら記載してもらえるような内容に改善したい。
服部文彦	・授業評価アンケートの内容を踏まえて、実務経験を生かした実践と理論でわかりやすく、理解しやすい授業を心がけていきたい。	グルークワークに関しては、とても意欲的に良い評価をいただいているが、授業内容の明確化や目標設定に関してわかりやすく、理解しやすい授業を心がけていきたい。
福田ムフタル	本年度は一科目を除いて全ての評価項目で平均評価値を上回る高い評価を受けており、授業が学生にとって非常に満足度の高いものであったと思います。これらの科目において、受講者が少ないこともあって、授業内容が学生によく伝わり、学生とのコミュニケーションもよくできたことが評価に反映されていると考えられます。一方、「情報ネットワーク応用」に関しては、一部の評価項目で平均評価値を下回る結果となりました。特に、「先生は、遅刻・早退せず、90分間の授業を行いましたか」という質問項目において、事実と反する評価が見受けられました。この授業に関して一度も遅刻・早退をしていないにもかかわらず、学生の評価が低かったことは、学生の質問に対する回答の捉え方が違ったかどうか、分析が必要だと思います。総じて、大半の科目における高評価は、教育方法が学生に適していることを示していますが、平均評価を下回る受けた科目や項目については、評価方法や学生のフィードバックの取り扱いに改善の余地があるのと、教授法の更なる改善にも努める必要があると考えます。	自由記述欄には全部合わせると7人しか記述がなく、否定的な意見はありませんでした。前年度も同じであったが、回答者が少ないことに関しては、学生の評価アンケートへの関心の低さを示すのか、それとも教員(私)の努力不足なのかが有り得るが、教員が努力すればよい方向に向かうことには間違いありませんので、次年度からはこれまでの経験を生かしながら改善に努力したいと思います。
傍嶋則之	前年度より授業評価アンケートについては、各項目が4.0以上であり、評価が高かったが今後も常に授業では判り易い授業を心掛け、授業の合間に実施する資格試験講座の小テストは継続することとする。また、時折、授業で説明する言葉が早口になることもあるため、詰込み型の授業は避けることとする。	授業に参加せず、私語を繰り返す学生に対しては、真面目に学習する学生の妨げになることから、連続して注意を促し、前述の90分の授業が詰込み型に陥らないよう考え、時間調整のために早口にならないように心がけるようにする。
本田 真	教員に対する評価は概ね4.0を上回っているので多くの学生が授業に満足していると考えられる。「先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」「授業内容はシラバスの内容に沿ったものでしたか」についてはやや低い評価であったので2025年是对応策を考えたい。具体的には、少人数の講義では質問の時間を設け、大人数の講義ではその他振り返りシートへの質問の記入を促す。また、シラバスについては授業内容との齟齬が生じないように内容の修正を図る。	授業の内容や進め方については概ね高評価であった。グループディスカッションやグループワーク等の協働的学修は苦手と考える学生も一定数いるので、協働的学修の意義をしっかりと説明したうえで、心理的負担の少ない形で行うなど学生の様子を観察しながら臨機応変に対応したい。また、グループディスカッションの際、悪乗りをする学生への苦情があったので「授業中に困ること」などの項目を振り返りシートに入れるなどして学生の要望を把握したい。

木川智美	「先生は、熱意を持って授業に取り組んでいましたか」「授業の内容は自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」への評価が相対的に高かったため、今後もこの点を継続して授業を行いたいと思います。「あなたは授業の内容を理解するため主体的に(自分自身で)学習しましたか」に対する得点が相対的にやや低めであったため、工夫をしたいと思います。	自由記述がありませんでした。
野間徹	学生に対して「もっと自宅でも学ばないと」という気持ちにさせることができなかった点は反省点(経営戦略3.8)。また、事業改善実習では受講者10名に対して入力1名と管理不足だった。授業前に入力させる等の工夫が必要だった。事業の調査と分析については長期インターンシップ直前を踏まえた内容にすべきだったと反省。	自由記述がありませんでした。
矢野昌彦	現代ビジネス学科の科目は、全体の平均値を超えていること及び昨年に比べ点数が高くなっている。特に。①自分にとって興味や関心のもてるものでしたか？②先生が熱意を持って授業に取り組んでいましたか？が高い点数がとれたことがよかった点である。今後も学生の興味を引く内容にさらに改善していきたい。また、経営専門職学科の科目においても、同様の傾向があり、現状でも問題はないと考えているが、今後は、課外授業も含めたより実践的授業への創意工夫をしていきたい。	【学生からのコメント】①これからもお世話になりますよろしくお願いします。②授業は楽しくやれました。が記載されていた。おおむね好評であると考えられるが、コメント総数が2件しかなかったため、今後は、コメントがたくさんもらえる努力をしていきたい。